

7

故障かな？と思ったときは

本装置の運用および保守について説明します。

- 日常の保守(→182ページ) 装置を日常使う上で確認しなければならない点やクリーニングの方法について説明します。
- 障害時の対処(→185ページ) 故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因の確認方法やその対処方法について説明しています。また、ソフトウェアを再インストールする手順についても説明しています。
- 移動と保管(→201ページ) 本体を移動・保管する際の手順や注意事項について説明します。
- ユーザーサポート(→202ページ) 本装置に関するさまざまなサービスについて説明します。サービスは弊社および弊社が認定した保守サービス会社から提供されるものです。ぜひご利用ください。

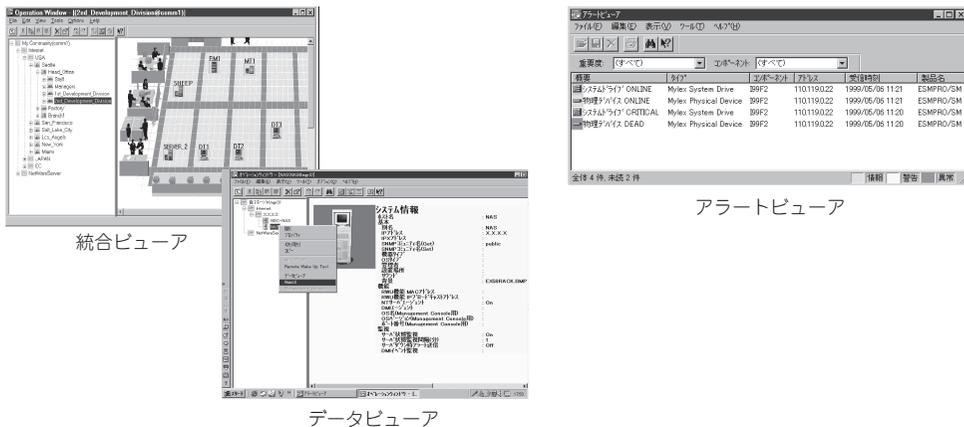
日常の保守

本装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

ESMPROでチェックする画面



ステータスランプの確認

本体の電源をONにした後、およびシャットダウンをして電源をOFFにする前に、本体にあるランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については16ページをご覧ください。万一、装置の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

クリーニング

本装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

 警告	
     	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない● プラグを差し込んだまま取り扱わない● DVD-ROMドライブの内部をのぞかない

本体のクリーニング

本体の外観の汚れは、柔らかい布で空ぶきしてください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、本体背面のコネクタ、本体内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 本体の電源がOFF (POWERランプ消灯) になっていることを確認する。
2. 本体の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 本体の汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布で空ぶきする。
8. 乾いた布で装置背面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取る。

故障かな？と思ったらときは

光ディスクのクリーニング

ディスクにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、DVD-ROMのクリーニングを行います。

1. 本体の電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認する。
2. DVD-ROMドライブのトレーをイジェクトする。
3. ディスクを軽く持ちながらトレーから取り出す。

重要

ディスクの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

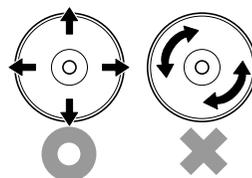
重要

DVD-ROMドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. オープン/クローズボタンを押して(またはトレーを軽く押して)トレーをDVD-ROMドライブに戻す。
6. ディスクの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

重要

ディスクは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、ディスク専用のクリーナであることを確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、本体にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れはファイルのバックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。クリーニングの時期やクリーニングの方法、および使用するテープカートリッジの使用期間や寿命についてはテープドライブに添付の説明書を参照してください。

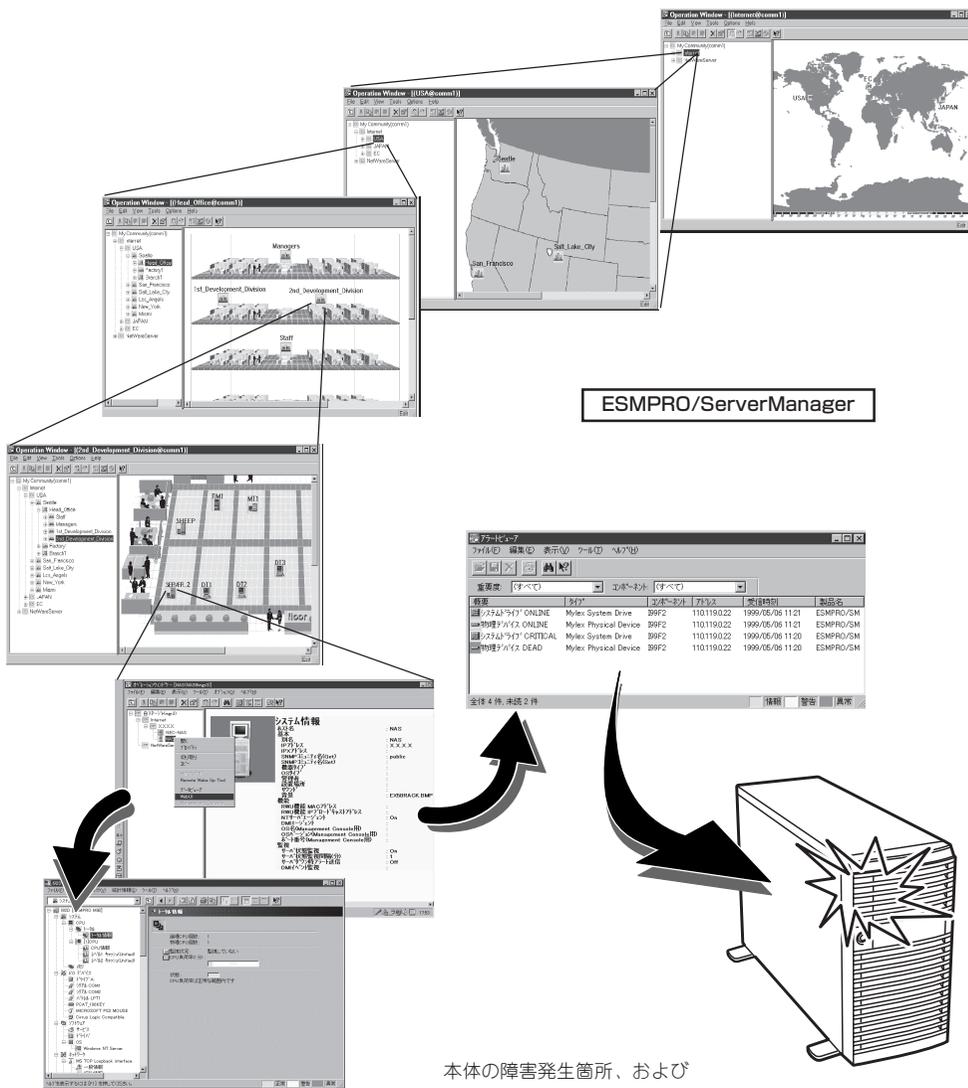
障害時の対処

「故障かな?」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。障害発生箇所や内容の確認ができれば、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



故障がなっと思ったときは

本体の障害発生箇所、および
障害内容を確認

トラブルシューティング

装置が思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従ってチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

装置本体について - 導入時の問題 -

初期設定ツールで本装置の自動発見ができない

- LANケーブルが接続されていない可能性があります。LANポート1にLANケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- サーバが正常に起動していない可能性があります。コンピュータ名の重複やIPアドレス/サブネットマスクの設定に誤りがないか確認してください。

同一ネットワーク上の複数の本装置を再インストールした場合、複数台同時に起動すると2台目以降は正常に起動できません。1台ずつ起動して初期設定を行い、初期設定完了後に次の1台を起動してください。
- ネットワーク負荷が高い可能性があります。自動発見オプションの設定でオプションの値を変更してください。

初期設定ツールで設定変更が開始できない

- 本装置の一覧で初期設定サービスが停止となっている場合、初期設定ツールによる設定変更はできません。管理ツール WebUIを使用して設定変更を行ってください。

初期設定ツールで設定変更ができない

- コンピュータ名やIPアドレスを誤って設定した可能性があります。同一ネットワーク上にコンピュータ名やIPアドレスが同じマシンが存在しないか確認してください。もしコンピュータ名やIPアドレスを重複して設定してしまった場合は、重複したマシンをいったんネットワークから切り離して、本装置を再起動し、初期設定ツールで設定変更してください。
- 複数のLANポートにケーブルが接続されている可能性があります。複数のLANポートを使用する場合は、まずLANポート1のみにケーブルを接続して初期設定を行い、初期設定完了後に残りのコネクタにケーブルを接続してください。



初期設定ツールで管理ツールWebUIの起動ができない

- iStorage NSサーバの一覧でWebUI起動が可となっているサーバに対して 管理ツールWebUIの起動ができない場合は、ネットワークの設定またはブラウザの設定に問題がある可能性があります。本装置および、初期設定ツールを動作させているWindowsマシンのネットワークの設定、およびブラウザの設定を確認してください。なお、管理ツールWebUIは Internet Explorer 6.0以上で動作します。初期設定ツールを使用する前に、通常使用するブラウザをInternet Explorer 6.0以上に設定しておいてください。
- iStorage NSサーバの一覧でWebUI起動が不可となっている場合、管理ツールWebUIの起動はできません。初期設定サービスが起動中の場合は、初期設定ツールで正しく設定変更を行ってください。初期設定サービスが停止の場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。初期設定ツールを動作させているWindowsマシンのネットワークの設定を確認してください。



初期設定ツールでWebUI起動が不可と表示される

- 初期設定が完了していない場合は、WebUI起動が不可となります(DHCPサーバからアドレスを取得できない場合)。初期設定ツールで初期設定を行ってください。
- 初期設定が完了した iStorage NSサーバ についてWebUI起動が不可となる場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。本装置および、初期設定ツールを動作させているWindowsマシンが同一ネットワークに属しているか確認してください。
- WebUI起動の確認に時間がかかり、不可となってしまう場合があります。もう一度自動発見を行って可とならないか確認してください。なお、iStorage NSサーバの一覧でWebUI起動が不可となっている場合、管理ツールWebUI の起動はできません。

装置本体について - 運用時の問題 -

起動できない

- 本装置の環境(フロッピーディスクドライブ/DVD-ROMドライブの接続やネットワークケーブルの接続など)を確認してください。
- フロッピーディスクドライブにアクセスした後、起動しない場合、ブートデバイス順が変わってしまっていることがあります。140ページを参照して、設定を確認してください。
- DVD-ROMドライブにEXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMをセットしている場合は、CD-ROMから起動しています。CD-ROMを取り出して再起動してください。
- いったん、EXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMをセットして本装置を起動してください。EXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMから起動することにより、内部設定がデフォルト値に戻ります(通常の運用には支障ありません)。それでも起動できない場合は、本体のマザーボード上にあるCMOSメモリの内容をクリアしてください。詳細な手順については、6章を参照してください。

それでも起動できない場合は、ソフトウェアを再インストールしてください。再インストールの手順についてはこの後の説明を参照してください。

ブラウザがWebUIを見つけない

- 正しいURLは、「https://hostname:8098/」です。「hostname」の部分には本装置のコンピュータ名またはIPアドレスを入力してください。
- URLウィンドウでhttps://を指定していることを確認してください。https://を付けずにアプリケーションのアドレスを入力すると、動作しません。

WebUIが正しく動作しない

- 正しいWebブラウザを使用していますか？サポートしているWebブラウザは、Internet Explorer 6.0以降です。それ以外のバージョンおよびNetscapeはサポートしていないので、正しく動作しません。

ブラウザアプリケーションから設定した変更内容に更新されていない

- 設定を変更したら、[OK]をクリックして、変更を有効にしてください。

本体の電源が自動的にOFFになった

- 装置の温度が高くなりすぎた可能性があります。通気が妨げられていないか確認し、装置の温度が下がってから再起動してください。それでも電源がOFFになる場合は、保守員に連絡してください。

Webが遅い

- ネットワーク上に負荷がかかって、通信が非常に遅くなっている可能性があります。ESMPRO/ServerAgentのネットワーク監視でネットワークの状況を確認してください。

? UNIXクライアントからの接続が正常にできない

- UNIXクライアント接続用のサーバ名が正しく設定されていない可能性があります。
「管理者ガイド」(<http://www.express.nec.co.jp/care/user/adminguide.html>)を参照して設定を確認してください。

? Macintoshクライアントからの接続が正常にできない

- AppleTalk名が正しく設定されていない可能性があります。37ページを参照して設定を確認してください。

? 運用中、システムイベントログに次のようなエラーが記録される

イベントID: 17
ソース: W32Time
種類: エラー
説明: タイム プロバイダ NtpClient: 手動で構成されたピア 'time.windows.com,0x1'の DNS 参照中に予期しないエラーが発生しました。30 分後に再試行します。
エラー: 到達できないホストに対してソケット操作を実行しようとした。
(0x80072751)

- タイムサーバーが正しく設定されていない場合に、上記のようなイベントログが記録されますが、運用上問題はありません。
コンピュータの時計の同期をとりたい場合は、[スタート]-[コントロールパネル]-[日付と時刻]をクリックし、[インターネット時刻]タブを選択し、タイムサーバーの設定を行ってください。

イベントID: 7026
ソース: Service Control Manager
種類: エラー
説明: 次のブート開始ドライバまたはシステム開始ドライバを読み込むことができませんでした: i8042prt

- キーボードが接続されていないと、上記のようなイベントログが記録される場合がありますが、運用上問題はありません。

? 運用中、システムイベントログに次のような警告が記録される

イベントID: 32
ソース: AppleTalk
種類: 警告
説明: アダプタ "Intel(R) PRO/100 M Network Connection" の AppleTalk の初期化中に取得されたノード ID は別のデバイスに割り当てられました。現在のノード ID は解放されて、新しいノード ID がシード範囲のシード ルーターより取得されました。

- ネットワークに接続されていない場合に、上記のようなイベントログが記録されることがありますが、運用上問題はありません。

EXPRESSBUILDER(SE)について

❓ EXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMから本装置を起動できない

- システムBIOSの起動デバイスが正しく設定されていない可能性があります。正しく設定できているか確認してみてください。
- POSTを実行中にEXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

EXPRESSBUILDER(SE)を実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージ内容を記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER(SE)の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NVRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NVRAM)にアクセスできません。
ハードディスクドライブへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクドライブが接続されていないか、ハードディスクドライブが異常です。ハードディスクドライブが正常に接続されていることを確認してください。

❓ メニューが文字化けしている

- コンソールのモードが実際の接続状態と異なっている可能性があります。ダイレクト接続(COM B)された管理PCから実行してください。

マスターコントロールメニューについて

❓ オンラインドキュメントが読めない

- Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか？
 - オンラインドキュメントの一部は、PDF形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader(Version 4.05以上)をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDER(SE) CD-ROMからインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、「ソフトウェアのセットアップ」の「Adobe Acrobat Reader」を選択してください。

❓ オンラインドキュメントの画像が見にくい

- ご使用のディスプレイは、256色以上の表示になっていますか？
 - ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。

? マスターコントロールメニューが表示されない

- ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降、またはWindows 95以降ですか？
→ CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。
- <Shift>キーを押していませんか？
→ <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットしますと、Autorun機能がキャンセルされます。
- システムの状態は問題ありませんか？
→ システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。

? メニュー項目がグレイアウトされている

- ご使用の環境は正しいですか？
→ 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

オフライン保守ユーティリティ・システム診断について

オフライン保守ユーティリティとシステム診断は保守員が使用するツールです。お客様は使用しないでください。万一、起動した場合は、速やかに終了させてください。設定を変更したり、ツールのメニューを起動したりすると誤動作するおそれがあります。

ディスクアレイについて

? 再インストールできない

- ディスクアレイコントローラのコンフィグレーションを行いましたか？
FastBuild Utilityを使って正しくコンフィグレーションしてください。

? OSを起動できない

- ディスクアレイコントローラのBIOS設定が変更されていませんか？
FastBuild Utilityを使って正しく設定してください。

- POSTでディスクアレイコントローラを認識していますか？

ディスクアレイコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をONにしてください。

正しく接続していても認識されない場合は、ディスクアレイコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

? リビルドができない

- リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブを使用して
ください。
- アレイのシンクロナイズが実行されていませんか？
アレイのシンクロナイズ終了後、リビルドを開始してください。
- RAID構成が、RAID0ではありませんか？
RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。「オフライン」になったハー
ドディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、イニ
シヤライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

? スケジュールでのアレイのシンクロナイズが実行しない

- イベントビューアに登録されていますアプリケーションログで、スケジュールの設
定を確認してください。

? ハードディスクドライブが「オフライン」になった

- 契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

? OSをインストールできない

- ディスクアレイコントローラのアレイ設定を行いましたか？
→ 「FastBuild Utility」を使ってアレイの設定を行ってください。
- アレイを複数作成していませんか？
→ OSをインストールするときは、アレイを1つだけ作成してください。
- 正しいドライバーを使用しましたか？
→ 「N8103-78ディスクアレイコントローラ(SATA)セットアップカード」で再確認
してください。

? OSを起動できない

- POSTで、ディスクアレイコントローラを認識していますか？
→ ディスクアレイコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源
をONにしてください。
→ 正しく接続していても認識されない場合は、ディスクアレイコントローラの故
障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売
店へ連絡してください。
- ハードディスクドライブが正しく認識されていますか？
→ 「FastBuild Utility」の[View Drive Assignments]を使って接続されているハー
ドディスクドライブがすべて認識されているか確認してください。
→ 正しく接続していても認識されない場合は、ハードディスクドライブの故障が
考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ
連絡してください。

- ブートディスクアレイが正しく選択されていますか？
 - アレイが2構成以上選択されている場合、ブートアレイの変更が可能です。通常、OSはArray1にインストールされていますので、ブートアレイがArray1に設定されているか確認してください。

? リビルドが実行できない

- リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
 - 故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブを使用してください。
- シンクロナイズが実行されていませんか？
 - シンクロナイズ終了後、リビルドを開始してください。
- アレイのRAID構成が、RAID0やJBODではありませんか？
 - RAID0/JBODには冗長性がないため、リビルドはできません。故障したハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、インシャライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

? シンクロナイズが実行できない

- アレイが「Critical」になっていませんか？
 - 故障しているハードディスクドライブに対し、リビルドを実施してデータの復旧を行ってください。

? ハードディスクドライブが故障した

- 契約している保守サービス会社、または購入した販売店へ連絡してください。

その他のアプリケーションについて

それぞれのページを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent: 52ページ
- ESMPRO/ServerManager: 55ページ
- Promise Array Management: 56ページ
- エクスプレス通報サービス: 83ページ

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアの再インストールは以下の手順で行います。

- 再インストールのための準備
- 「iStorage NS44PバックアップDVD-ROM」を用いたインストール
- iStorage NSの起動
- 確認と設定

再インストールのための準備

<注意>

- 再インストールを行う際に、アレイ構成を変更したり、ベシックディスクへ戻したりすると、ハードディスクドライブ上のデータは全て削除されます。また、誤った手順を実行すると、ハードディスクドライブ上のデータが全て削除される危険性がありますので、再インストール作業の前に、必ず必要なデータを外付けバックアップ装置などにバックアップしてください。システム復旧のためのバックアップの方法に関しては、管理者ガイドが掲載されたホームページ上で共に公開するシステム復旧手順書とBackup Exec またはNetBackupのマニュアル類を参照してください。
- 同じネットワーク内で複数のiStorage NSを再インストールする必要がある場合でも1台ずつ行ってください。
- BIOSレベルの設定は管理PCよりハイパーターミナルを使用してリモートから行います(ハイパーターミナルの接続に関しては付録C「ターミナルソフトウェアの使い方」を参照してください)。しかし、以下の場合は、iStorage NSソフトウェアの再インストールを行う前に、本装置にディスプレイ・キーボード接続してFastBuild Utilityで設定変更を行ってください。
 - ー ディスクアレイコントローラのライトキャッシュの設定を「Write Thru(Write Through)」に変更する場合(再インストールは必ず「Write Thru(Write Through)」で行ってください)
 - ー RAID構成を変更して再インストールする場合(出荷時構成(RAID5 (3D+P))にする場合を除く)上記以外の場合は、管理者PCよりハイパーターミナルを使用して再インストールを行ってください。
- 再インストール時には必ずLANケーブルを接続してください。使用できるポートに関しては、本装置に添付のスタートアップガイドを参照してください。

<出荷時の構成について>

本装置は、標準でディスクアレイコントローラ(IDE)が1枚搭載されています。出荷時にはディスクアレイコントローラ(PCI#5)に4台のハードディスクドライブが接続され、RAID5(3D+P)のアレイ構成になっています。

本装置の場合、再インストール時のディスクの状態によって以下の5つの方法があります。

アレイ構成を変更せずに再インストールを行う場合

- すべてのシステムドライブをベーシックディスクで使用する場合
- システムドライブをダイナミックディスクへアップグレードしている場合

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合

- アレイ構成を出荷時状態 (RAID5 (3D + P)) に戻す場合
- アレイ構成を出荷時の状態 (RAID5 (3D + P)) 以外で使用する場合

ハードディスクドライブを交換した場合

- ハードディスクドライブを交換した場合

以降、それぞれについて説明します。

アレイ構成を変更せずに再インストールを行う場合

アレイ構成を変更せずに再インストールを行う場合の手順について説明します。

● すべてのシステムドライブをベーシックディスクで使用している場合

すべてのシステムドライブをベーシックディスクで使用している場合は、「iStorageNS44P バックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進んでください。

● システムドライブをダイナミックディスクへアップグレードしている場合

システムドライブをダイナミックディスクへアップグレードしている場合は、OSの再インストール前に、EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMに含まれるFDISKユーティリティでダイナミックディスクにアップグレードしたディスクのすべてのパーティションを削除します。このため、必要なデータは必ず再インストール前に外付けバックアップ装置などにバックアップを行ってください。ハイパーターミナルの接続に関しては、付録Cの「ターミナルソフトウェアの使い方」を参照してください。

1. 本装置の電源をONにし、EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMをセットする。
2. EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMのメインメニューが表示されたら、[終了]を選択し、<Enter>キーを押す。
3. 終了メッセージが表示されたら、<Enter>キーを押してDOS画面を起動する。
4. Q:¥>の後にfdiskと入力して<Enter>キーを押す。
5. 「Do you wish to enable large disk support? [Y]:」と表示されるので、<Y>キーまたは<N>キーを押す。
FDISKメニューが表示されます。
6. <A>キーを押し、[A)Delete all partitions]を選択する。
7. 「Delete all partitions for which drive (1-n) [1]:」とメッセージが表示されたら、キーボードからパーティションを削除するディスク番号を入力する。

8. 選択したディスクの情報と、「Are you sure you want to delete? [N] 」とメッセージが表示されたら、<Y>キーを押す。
選択したディスクのパーティションがすべて削除されます。削除されたら「Partition(s) deleted」と表示されます。
9. <Esc>キーを押してメニューに戻る。
10. 手順6から手順9を繰り返して、残りのダイナミックディスクのパーティションを削除する。
11. <V>キーを押して[View partition(s)]を選択する。
「No partitions」と表示されていれば削除は正常に行われています。
12. ダイナミックディスクのパーティションをすべて削除したら、<Esc>キーでメニューに戻り、<S>キーを押す。
13. 「Changes saved. Press any key to reboot…」と表示されたら、何かキーを押して再起動する。
再起動後、EXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMのメインメニューが表示されます。
14. [終了]を選択して<Enter>キーを押す。
15. 終了メッセージが表示されたらEXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMを取り出し、本体の電源をOFFにする。
16. 「iStorageNS44P バックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進む。

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合について説明します。いずれの場合も、再インストールを行うとデータは全て削除されます。作業を開始する前に必ず必要なデータを外付けバックアップ装置などにバックアップしてください。

● アレイ構成を出荷時状態(RAID5(3D+P))に戻す場合

アレイ構成を出荷時状態に戻すには、EXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMに格納されている「ディスクアレイコンフィグレーション」を使用します。「ディスクアレイコンフィグレーション」を使用してアレイを構築した後、「iStorageNS44P バックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進んでください。ハイパーターミナルの接続に関しては付録Cの「ターミナルソフトウェアの使い方」を参照してください。

1. 本装置の電源をONにし、添付のEXPRESSBUILDER(SE) CD-ROMをセットする。
2. メインメニューが表示されたら、[ツール]を選択して<Enter>キーを押す。
3. [ディスクアレイコンフィグレーション]を選択して<Enter>キーを押す。
ディスクアレイコンフィグレーションについては、4章の「EXPRESSBUILDER(SE)」を参照してください。
4. アレイ構築が終了したら、メインメニューに戻り、[終了]を選択して<Enter>キーを押す。
5. 終了メッセージが表示されたら、EXPRESSBUILDER(SE) CD-ROMを取り出し、本装置の電源をOFFにする。
6. 「iStorageNS44P バックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進む。

● アレイ構成を出荷時の状態(RAID5(3D + P))以外で使用する場合

アレイ構成を出荷時の状態(RAID5(3D + P))以外で使用する場合は、本装置にディスプレイとキーボードを接続し、FastBuild Utilityを使用してアレイ構成を行います。その後、装置添付の「iStorageNS44P バックアップDVD-ROM」を使用してiStorage NSのソフトウェアをインストールします。FastBuild Utilityの操作に関しては、6章の「RAIDコンフィグレーション」を参照してください。

1. 本装置の電源をOFFにし、ディスプレイとキーボードを接続する。
2. 本装置の電源をONにし、POST中に「Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility..」と表示されたら<Ctrl>キーと<F>キーを押す。
FastBuild Utilityが起動します。
3. 6章の「RAIDコンフィグレーション」を参照して、アレイを構築する。

重要

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合は、必ず「Fast init」を実施してください。

4. アレイの作成が終了したら、FastBuild Utilityを終了する。
5. 本装置の電源をOFFにする。
6. 「iStorageNS44P バックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進む。

ハードディスクドライブを交換した場合

出荷時状態(RAID5(3D+P))にする場合は「アレイ構成を出荷時状態(RAID5(3D+P))に戻す場合」を、出荷時構成以外で使用する場合は「アレイ構成を出荷時の状態(RAID5(3D + P))以外で使用する場合」を参照してアレイを構築し、その後、装置に添付の「iStorage NS44P バックアップDVD-ROM」を使用してiStorage NSソフトウェアをインストールしてください。

「iStorageNS44P バックアップDVD-ROM」を用いたインストール

iStorageNS ソフトウェアの再インストールには、添付の「iStorageNS44P バックアップDVD-ROM」を使います。以下の手順に従い、BIOSのブートデバイスの順位を確認した後、ソフトウェアの再インストールを行ってください。ハイパーターミナルの接続に関しては、付録Cの「ターミナルソフトウェアの使い方」を参照してください。

1. 本装置の電源をONにし、DVD-ROMドライブに「iStorageNS44P バックアップDVD-ROM」をセットする。
2. 2章の「BIOS設定の注意点」を参照してブートデバイスが以下の順番に設定されていることを確認する。
 1. [DVD-ROM Drive]
 2. [Removable Devices]
 3. [Hard Drive]

3. システムBIOS Setupユーティリティを終了する。

フロッピーディスクをセットしている場合は、フロッピーディスクドライブから取り出してください。

DVD-ROMから自動起動して、iStorageNSソフトウェアが本装置にインストールされます。インストールを正常に終了すると断続的なパターンでピーブ音が鳴ります。異常終了した時は連続的にピーブ音が鳴ります。

4. DVD-ROMドライブから「iStorageNS44P バックアップDVD-ROM」を取り出す。
5. 本装置の電源をOFFにし、ディスプレイ、キーボードが接続されている場合は取り外す。



チェック

POWERランプが消灯したことを確認してください。2~3分経過してもPOWERランプが消灯しない場合は、強制電源OFF (POWERスイッチを4秒ほど押し続ける) をしてください(強制電源OFFについては1章の「強制電源OFF」を参照してください)。

6. 「iStorage NSの起動」の節に進む。



ヒント

再インストールが異常終了すると、連続的なピーブ音が鳴ります。その場合、装置添付のDVD-ROMでない可能性があります。DVD-ROMが添付のものでない場合は、正しいDVD-ROMをセットして本体の電源をOFFにした後、再度ONにしてください。正しいDVD-ROMがセットされていた場合は、再インストール手順を再確認してください。

iStorage NSの起動

本装置の電源ON後、初期設定ツールを使用してコンピュータ名、IPアドレスなどを設定してください。初期設定ツールの操作に関しては第2章を参照してください。

これで再インストールは終了です。「確認と設定」に進んでください。

確認と設定

次に説明する確認と設定をしてください。

本装置へのログオン

管理PCよりWebUIにて本装置に接続し、WebUIの[メンテナンス]→[リモートデスクトップ]をクリックし、リモートデスクトップ画面を起動します。

管理者権限を持ったユーザー名とパスワードを用いて本装置へリモートログオンします。管理者のユーザー名とパスワードはあらかじめ設定されています。装置添付のスタートアップガイドを参照してください。

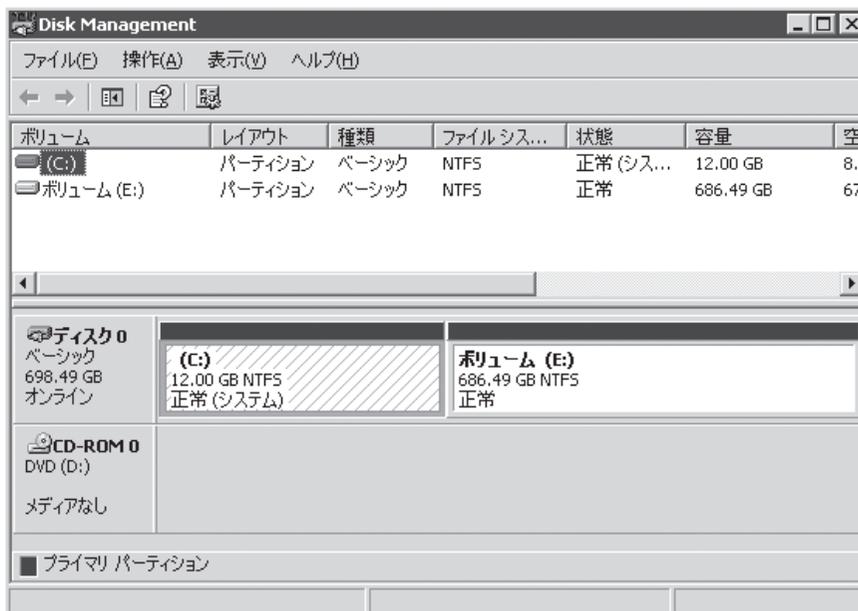
仮想メモリの確認

システムのプロパティから仮想メモリの値を変更します。以下の手順で行います。

1. [スタート]→[コントロールパネル]→[システム]をクリックする。
2. [詳細設定]タブをクリックし、[パフォーマンス]の[設定]をクリックする。
3. [詳細設定]タブをクリックし、[仮想メモリ]の[変更]をクリックする。
4. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」で[初期サイズ]に搭載メモリの1.5倍、[最大サイズ]に搭載メモリの3倍の値を設定して[設定]をクリックする。
[初期サイズ]、[最大サイズ]に設定できる値は「4096」までです。搭載メモリの1.5倍、3倍の値が「4096」を超える場合は「4096」を設定します。
5. [OK]をクリックして、すべてのウィンドウを閉じる。
6. リモートデスクトップをログオフし、iStorage NSを再起動する。

ディスク管理での確認 - ドライブレターの変更 -

[Disk Management]でドライブ文字を確認し、必要に応じてドライブレターを変更します。DVD-ROMやディスク0 (FDISKユーティリティではディスク1になっています)のボリュームに設定されているドライブレターが以下の図の設定になっていることを確認してください。以下の図はアレイ構成をRAID5 (3D+P)で設定した場合の図です。



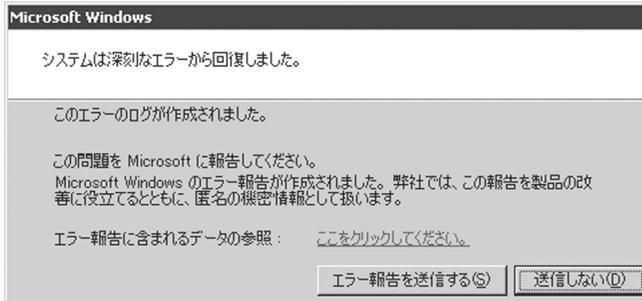
以上で再インストール手順は終了です。

再インストール時に増設したダイナミックディスクのパーティションを削除された場合は、必要に応じてパーティションを作成してください。

最後に必要であれば、バックアップしたデータをリストアします。リストアの手順は、管理者ガイドが掲載されたホームページ上で公開するシステム復旧手順書とBackupExecまたはNetBackupのマニュアル類を参照してください。

注意事項

- 再インストール後、以下のようなウィンドウが起動直後に数回表示されることがあります。その場合は、「送信しない」をクリックしてください。



また、このメッセージが表示された場合、イベントビューアのシステムに以下のエラーログが数回登録されます。このエラーが発生した時刻付近でイベントID6006「イベントログ サービスが停止されました。」が登録されていれば、特に問題ありません。

ソース System Error

イベントID 1003

種類 エラー

この現象について、マイクロソフトのサポート技術情報に掲載されています。以下のWebページにて確認してください(2004年12月15日現在)。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;828144&Product=winsvr2003>

- システム起動時などに、システムイベントログに以下のような警告が記録されることがあります。これは本装置に搭載されているPromise Array Managementで定期的なシンクロナイズが設定されていない場合に記録されますが、特に問題はありません。

ソース Promise Array Management

イベントID 574

種類 警告

ソース Application Popup

イベントID 26

種類 情報

- システム起動時に以下のイベントがシステムイベントログに記録されることがあります。これはLANケーブルを接続せずにiStorage NSを起動し、User Name Mappingサービスが停止したために発生します。その場合は、本装置にLANケーブルを接続して、WebUIよりリモートデスクトップを起動し、デスクトップ上の管理者メニューの[サービス]を起動してUser Name Mappingサービスを開始してください。

ソース Service Control Manager

イベントID 7022、7034

種類 エラー

移動と保管

本体を移動・保管するときは次の手順に従ってください。

 警告	
  	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 一人でもちあげない● 指定以外の場所に設置しない● プラグを差し込んだまま取り扱わない



- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- 本装置にはハードディスクドライブが内蔵されています。ハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本体を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。

装置を保管する場合は、保管環境条件(温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%)を守って保管してください(ただし、結露しないこと)。

1. フロッピーディスク、CD-ROMをセットしている場合は本体から取り出す。
2. 本体の電源をOFF (POWERランプ消灯)にする。
3. 本体の電源コードをコンセントから抜く。
4. 本体に接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. スタビライザを取り外す。
6. 二人以上で本体の底面を持って運ぶ。



本体前面のフロントドアを持って、持ち上げないでください。フロントドアが外れて落下し、装置を破損してしまいます。

7. 本体に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。



輸送後や保管後、装置を再び運用する場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。本装置および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因となります。装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

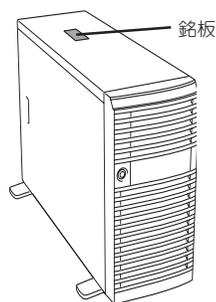
保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社に連絡してください。



- 弊社製以外(サードパーティ)の製品、または弊社が認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた本装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本体背面に、製品の形式、SERIAL No.(号機番号)、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の製造番号と保証書の保証番号が一致していませんと、装置が保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。



修理に出される前に

「故障かな?」と思ったら、以下の手順を行ってください。

- ① 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- ② 「障害時の対処(185ページ)」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社にご連絡ください。その際に装置のランプの表示や管理ソフトウェアからのアラートメッセージやイベントログなどもご確認ください。故障時のランプ表示やエラーメッセージは修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録D「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。

なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。



この製品は日本国内仕様のため、弊社の海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- 保証書
- 障害情報、または障害が起きたときの状況のメモ
- 本体の記録

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスは弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。

なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様のご要求により優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様のご要求により、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

弊社では、お客様に合わせて以下の契約保守サービスを用意しております。



- サービスを受ける為には事前の契約が必要です。
- サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。

ハードウェア保守サービス

維持保守サービス

定期的な点検により障害を予防します。(定期予防保守)
また、万一障害発生時には保守技術者がすみやかに修復します。(緊急障害復旧)

出張修理サービス

障害発生時、保守技術者が出張して修理します。(緊急障害復旧)

付帯設備保守サービス

コンピュータだけでなく、空調設備、電源設備などの付帯設備について点検・修理をします。

ソフトウェア保守サービス

PP(プログラム・プロダクト)・サポートサービス

弊社が納入する一部他社製品のライセンス・ソフトウェアに対し、下記の作業を行います。(製品によっては保守サービスを提供できないものがあります。)

- PPに関する電話・FAXによる問い合わせ対応
- PPの更新情報・技術情報などの提供
- PPの更新版の提供

オプションサービス

下記のオプションサービスもございますのでご利用ください。
なお、オプションサービスは提供する弊社販売店により、名称、内容が異なる場合がございますので、お確かめの上、ご用命ください。以下のサービスはNECフィールディング株式会社が提供するものです。

統括保守サービス

他社が納入した他社製品*を含むシステムの保守管理業務を代行し、障害発生時の障害切り分けを行うことにより、保守窓口の一本化を実現します。

* 他社が納入した他社製品は、お客様と他社との間でその保守契約が必要です。

- 保守に関するお客様窓口と保守全般の取りまとめ
- 障害の切り分けと障害復旧フォロー
- 保守情報の取りまとめ

マルチベンダ保守サービス

マルチベンダ製品(本製品+SI仕入製品*)で構成されるクライアント・サーバ・システムに対し、下記の形態による修理を行います。

維持保守形態	定期予防保守と、障害発生機器の切り分け、緊急障害復旧を行います。
出張保守形態	障害発生機器の切り分け、緊急障害復旧を行います。
引取り保守形態	障害発生機器の切り分け、取外し、引取り、持帰り、調査、修理をし、完了後に取付け、動作確認、修理内容報告、引渡しを行います。
預り保守形態	お客様が送付された故障品を修理し、完了後にご返送します。

* SI仕入製品とは・・・

弊社が他社から仕入れ、責任をもってお客様に納入させていただく他社製品のことで。

LANマルチベンダサービス

他社製品を含むマルチベンダで構成されるLAN機器(ルータ・HUB・ブリッジなど)について、障害原因の切り分けとお客様が選んだ保守方式による障害修復を行います。クライアントおよびサーバは、本メニュー対象外です。

弊社製のLAN機器は出張修理を行います。

他社製品のLAN機器についても、シングルウィンドウでその障害修復(センドバック、予備機保守など、お客様が選んだ保守方式による)までをフォローします。

クライアント構成監視サービス

Windows NT/NetWareを使用したクライアント・サーバシステムにおけるクライアントのハードウェア構成情報とインストール済みソフト情報をリモートで採集し、編集してお客様に報告します。

LAN・ネットワーク監視サービス

お客様が準備したLAN・ネットワーク監視装置を使用し、INS回線経由で監視します。サービス内容は、ネットワークノードの障害監視から、性能監視、構成監視まであります。サービス日時は、24時間・365日まで9パターンから選択できます。監視の結果は、毎月報告書を発行します。修理は、ハードウェアの保守サービスで対応します。

情報サービスについて

iStorage NSシリーズに関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 03-3455-5800(代表)

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

本装置および他のiStorage製品や関連製品に関する情報をインターネットでも提供しています。

<http://www.express.nec.co.jp/products/nas//index.html>

製品情報やQ&Aなど最新Storage情報満載のホームページです。

<http://www.fielding.co.jp/>

NECフィールドイング(株)ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。